

施策評価シート（平成23年度の振り返り、総括）

作成日 平成24年 04月 06日

施策 No.	35	施策名	観光の振興
主管課名	商工観光課	電話番号	0285-83-8135
関係課名	農政課、企画課		

施策の対象	市内を訪れる観光客（首都圏住民が中心的なターゲット層）								
対象指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度見込
観光客数	人				2,547,725	2,785,291	2,806,703	2,230,492	2,750,000
関東 1都6県の人口	人				42,176,157	42,420,000	42,594,981	42,589,054	

施策の意図	本市の魅力を目的に、市外から多くの人々に訪れてもらい、活力あるまちづくりをすすめる。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	<ul style="list-style-type: none"> 入込客数は、県調査の観光客入込客数（H.23.1～H.23.12） その他は、商工観光課で調査したデータ。 一人当たりの消費高の算出は、井頭温泉・チャットパレス・ゴルフ場・物産会館・道の駅 あく里っ娘の売上高を実人員で割出して算出。 平成22年度実績（1,358,782,283円 ÷ 799,942人 1,699円）								
成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度基本計画目標値
観光客入り込み客数	人				2,547,725	2,785,291	2,806,703	2,230,492	2,750,000
客一人当たりの消費高	円				1,641	1,625	1,610	1,699	

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 観光は市民協働によって推進していくことが重要であり、行政はその支援をしていくことが役割となる。 観光協会が、行政と民間をつなぐ役割を果たしている。
-------------------------	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・観光客入込み数は、H22までは増加傾向にあったが、H23.3.11の大震災に伴い2,230,492人と前年と比較して79.5%の576,211人と大きく減少した。

井頭公園711,738人（前年比較 70,163）
一万人プール 休園（前年比較 174,049）
桜まつり 中止（前年比較 80,000）
夏祭り花火大会中止（前年比較 100,000）

・北関東自動車は、平成20年3月に真岡ICが開通し、平成23年3月に足利ICが開通により全線が開通となった。真岡ICの1日平均交通量は、20年度:3,487台、21年度:4,481台、22年度:5,009台、23年度:5,793台と増加傾向にある。

(2) 近隣他市との比較

・近隣他市も同様に、大震災に伴い大きく減少している。

宇都宮市12,740,502人（前年比94.2% 790,281人）
小山市 2,681,634人（前年比84.1% 505,158人）
益子町 1,579,437人（前年比80.4% 384,864人）

(3) 住民期待水準との比較

・市民意向調査の「今後のまちづくりに力を入れて欲しい施策」の質問に対し、観光の振興を選んだ割合がH22:9.5%、H23:9.7%、H24:12.5%と増加傾向にあり、大震災により被災した観光施設等の復旧や、観光まちづくりによる活性化への期待があるものと推測され、住民の期待水準が高くなってきている。

23年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・観光協会のホームページから季節にあわせたイベントや祭事などを情報発信し、PRを図った。

・市では、県やすらぎの栃木路、芳賀地域整備推進協議会と連携し、新宿駅、大宮駅、ツインリンクもてぎ等のイベントにおいて共同にて広域観光のPRを行った。また、市単独で、市内各施設、イベント等でパンフレットの配布や、県観光協会東京事務所にパンフレットを設置し、さらに2月2日、3日の2日間、日本橋イベントスペースにおいて本市観光のPRを図った。

・「真岡の一万人桜まつり（H23は震災により中止）」「もおか木綿ふれあいまつり」に、駅からハイキング事業をタイアップさせて市外から誘客を図った（207人）。

・「真岡の一万人桜まつり（H23は震災により中止）」「中村八幡宮流鏝馬」「もおか木綿ふれあいまつり」「大産業祭」の開催にあわせて、市内観光施設を巡る周遊バスを運行した（676人が利用）

・第3回の「真岡浪漫ひな飾り」を久保講堂で実施（6,005人が来場）

・「いい芳賀いちご夢街道」推進協議会に加盟し、いちごをテーマに地域ブランドの確立に向け1市4町で広域連携を図るとともに、「いちご祭」や「あく里っ娘でのいちご狩り」への誘客を実施して、いちご日本一のPRを図った。

・木綿の里もおか“ほっと”なまちづくり推進事業に伴い、門前地区の空き店に7店舗が出店したことや、天の織姫市の開催などにより、回遊性の向上や賑わいの創出につながっている。

・真岡の名所・イベントなどの観光PR案内板を22年度に3ヶ所、23年度に2ヶ所設置した。

・平成22年度から観光協会と連携し、真岡のカレンダーを作成し（ホームページよりダウンロード）、真岡の名所・イベントのPRを図った。

・平成24年5月に東京スカイツリータウン内にオープンした、「とちまるショップ（栃木県アンテナショップ）」に商品の登録を促進した。

・本市の観光資源等を市内、外に向けて広くPRするために、とちぎテレビに番組の制作、放送を委託、また、イベント情報をとちぎテレビとFM栃木で放送し、誘客の増加を図った。

続きは補足事項参照

<p>23年度の 評価結果</p>	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真岡木綿会館、井頭温泉、あぐりっ娘、道の駅にのみや、尊徳資料館等を観光情報の発信拠点と位置付けて、イベント情報や季節の祭事等の観光情報を提供して誘客を図っていく。 ・観光協会ホームページやバス広告（水戸、大宮）などを活用し、近隣県や首都圏等に本市の魅力を積極的に情報発信していく。 ・おもてなしの心で、四季折々の新たな企画を考え、観光客のリピーター化を推進する。 ・県内や郡内で共同しての広域観光の推進を図っていく。 ・門前地区の賑わいを創出し、市街地活性化の推進を図っていく。 ・H23.6に設置した観光ネットワーク協議会による観光まちづくりを積極的に推進し、本市の魅力アップを図ることで、多くの観光客に来てもらい、まちの一層の活性化を図っていく。 ・「久保邸」や真岡駅のSLの走るまち拠点施設の整備を踏まえて、周辺の観光資源との連携を強化していく。 ・「とちまるショップ（栃木県アンテナショップ）」及び日本橋プラザビルのイベントスペースにおいて物産展を開催し、真岡の観光PRを実施する。 ・真岡の特産品や新商品を開発してPRを図っていくとともに、栃木県アンテナショップの積極的な活用を推進する。 ・農（イチゴやナス狩り）と食（市内での食事）の連携による地域経済の活性化を図るとともに、食のガイドマップを作成し、誘客事業を推進する。 ・市民協働の観光まちづくりを推進するため、観光協会の組織体制の充実を図っていく。
	<p>補足事項</p> <p>23年度の評価結果</p> <p>2. 施策の成果実績に対してこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括の補足説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真岡市観光ネットワーク検討委員会により検討された報告書（平成22年9月提出）を受け、「観光ネットワーク協議会」をH23.6に設立し、3ヵ年を重点推進期間として、市民協働による観光まちづくりを計画・実践に取り組んでいる。 ・真岡市物産会館が震災により解体したため、H23.7に仮設店舗での営業を再開した。 ・荒町本通りに面する「久保邸」及び新たな物産会館の整備に向けた「観光拠点施設等整備構想」をH24.3に策定した。